

B-6 「コミュニケーション基礎実践」

(1) 科目の紹介

基本情報	平成 26 年度・教養教育・後期		曜日・校時	月 2 限	
モジュール名	コミュニケーション基礎講座Ⅰ		科目名	コミュニケーション基礎実践	
教員名(所属)	當山 明華・岡田 佳子・若菜 啓孝(大学教育イノベーションセンター)			教室	G-38
選択者数	88 名	1 年生の所属学部	多文化社会学部 教育学部 経済学部 薬学部 水産学部		
再履修数	1 名		(4 名)	(37 名)	(41 名) (5 名) (1 名)
<p>授業のねらい：</p> <p>本科目は「コミュニケーション基礎講座」のモジュールⅠ科目として、大学や社会でのコミュニケーションに必要とされる基礎能力の育成を目指している。</p> <p>大学以降では、問題の要点を理解・判断したうえで、自分が考えた意見を人に伝えることや自分と異なる意見を持った相手と関係を構築するなどのコミュニケーションのための様々な能力が求められる。そのため、本科目では、「読み」「書き」およびプレゼンテーションやディスカッション等の基礎的な技能を高め、さらにソーシャルメディアの可能性や情報化社会が及ぼす影響について理解することによって、大学や社会で求められるコミュニケーション能力を全体的に高めていくことを目指す。</p>					
<p>アクティブラーニングに向けて工夫した点：</p> <p>「読み」「書き」を中心とした基本的な自己表現力スキルを高める授業のため、個人ワーク、グループワーク、リフレクションペーパーおよび課外レポート等では、それらを意識した課題を課した。また、学生の行動だけでなく思考自体も受け身ではないようにするために、授業と課題が学生自身の何に役立つのか理解できるように、授業の最初に前回授業のリフレクションペーパーへのレスポンスを行い、さらに授業の中では適宜、本科目の目的・目標と毎回の授業との関連性の意識づけを行った。</p> <p>また、課外レポートでは、授業の目標は何か、教員が何を評価しているのかを示すために、ループリッックを提示し、それを考慮したレポートを書くように指示している。さらに、学生同士に課外レポートをループリッックに基づいたピア評価させることにより、客観視(観察)や評価の視点を広げ、最終的には自己評価への精度を高めることを期待した。</p>					

(2) 学修の評価

到達目標	①与えられた情報の要点を理解し、要約することができる ②調べたいテーマについて適切な方法で資料検索・調査ができる ③正しい引用・注記方法を用いて論理的なレポートがかけられる ④人の発表や意見を聞いたうえで、自分の意見をまとめ、述べられる ⑤建設的かつ創造的に議論ができる ⑥ものの見方、考え方には多様性があることを理解する
成績評価の方法	①主体的な学習・研究活動を行ったか(10点) ②積極的に課題と向き合ったか(50点) ③授業の内容を理解しようと努めたか(40点)

(3) 授業の進行

<p>概 要：</p> <p>上記目標を到達するために必要な理論・スキルの説明と演習を行う。1回の授業は以下の流れで進める。</p> <p>(1) コミュニケーションに必要な理論・スキルを学ぶ</p> <p>(2) 学んだ理論・スキルについてのワーク，またはグループ演習および発表を行う</p> <p>(3) 授業外の時間に，授業の内容などについてのレポートを作成し提出する</p>		
回	学習内容	授業方法（講義、グループワーク、プレゼンなど）
1	本科目の趣旨説明，自己の現在評価を行う	講義 授業内レポート
2	自己紹介文を書く～ライティングの基礎を学ぶ～	講義，個人ワーク リフレクションペーパー 課外レポート
3	レポートの書き方，引用の仕方を学ぶ	講義，個人ワーク，グループワーク リフレクションペーパー 課外レポート
4	情報セキュリティについて	講義，個人ワーク リフレクションペーパー 課外レポート
5	ソーシャルネットワークサービスについて(1)	講義，個人ワーク リフレクションペーパー 課外レポート
6	ソーシャルネットワークサービスについて(2)	講義，個人ワーク リフレクションペーパー 課外レポート
7	ディスカッション・プレゼンテーションの基本	講義，個人ワーク，グループワーク リフレクションペーパー 課外レポート
8	情報の精査・要約の仕方について学ぶ	講義，個人ワーク，グループワーク リフレクションペーパー 課外レポート
9	目標設定や自己診断の大切さを学ぶ	講義，個人ワーク，グループワーク リフレクションペーパー 課外レポート

10	コミュニケーションスキルについて学ぶ(1)	講義, 個人ワーク, グループワーク リフレクションペーパー 課外レポート
11	コミュニケーションスキルについて学ぶ(2)	講義, 個人ワーク, グループワーク リフレクションペーパー 課外レポート
12	思考力について学ぶ(1)	講義, 個人ワーク リフレクションペーパー 課外レポート
13	思考力について学ぶ(2)	講義, 個人ワーク リフレクションペーパー 課外レポート
14	思考力について学ぶ(3)	講義, 個人ワーク リフレクションペーパー 課外レポート
15	学習のまとめと自己評価	講義 リフレクションペーパー 課外レポート

(4) 授業の成果

全体の総括	<p>本授業は、日本語の「読み」「書き」およびプレゼンテーションやディスカッション等の基本的な自己表現力スキルを高め、さらに問題の要点を理解・判断できることを目的としている。そのために、授業の中では、演習として個人ワークやグループワークを行い、授業外では、授業の理解を定着させるようなレポート課題を課した。さらに、他者のレポートを評価することにより、客観視および自己評価のスキルを高めることを期待し、課外レポートの学生によるピア評価も行った。なお、課外レポートの提出、ピア評価、および成績評価（ルーブリックによる評価も含む）はLACSを利用した。</p> <p>このような授業設計を行い、「学生による授業評価」において「授業を通して自己表現力が高まった」という項目を追加し、そのスキルが向上したか確認した。その結果、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた生徒が7割程度いたため、本授業の自己表現スキルを高めるという目標については到達していると認識できた学生が一定数いることが確認できた。しかしながら、客観視や自己評価スキルの向上については、リフレクションや課外レポートを見る限りにおいては、2割程度の学生のみが向上したように思われた。</p>
今後の改善点	「学生による授業評価」の結果より7割近い学生が目標を到達できたと認識し

	<p>ていることが分かったが、授業終了後書いてもらうリフレクションペーパーを読むと、授業内容自体を理解できていないだろうと思われる学生が1割程度いることも事実である。授業の大部分がロジカルシンキングを主とした展開となっているため、難易度がやや高めとなっていることが原因だろう。今後は、さらに解説を丁寧に行う、または事前にテクニカルタームなどを確認してもらうなどの工夫が必要であると考ええる。</p> <p>また、レポート課題の評価のためにルーブリックを作成し、それを基に学生にレポートを書いてもらったが、評価の観点重複する部分や逆に不足している部分があったため、再検討する必要がある。さらに、ピア評価を行うことにより、客観視および自己評価スキルが高まることを期待したが、ほとんどの学生が教師評価とは異なる視点の認知というところで留まってしまっていた。そのため、ピア評価の利点や評価方法について丁寧に示し、客観視や自己評価の視点を広げるような工夫を行う必要がある。</p>
--	---

(5) アクティブ・ラーニングの充実に向けた提案

ポイント提案	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションペーパーの活用方法 <p>毎回の授業の最初に、前回のリフレクションペーパーを基に前回のまとめを行い、そしてその授業回の目標を提示し、前回の授業と関連づけることを意識した。そのことにより、学生自身が何のためにこの授業を受けているのか認識していたように思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピア評価の活用 <p>ピア評価を行うことにより、学生の2割程度であるが客観視および自己評価の視点が広まったように思われた。</p>
参考になる資料	

(別添資料)

資料1) 課外レポート評価用のルーブリック

資料2) 学生のピア評価用のルーブリック